

教えて『認知症』② ≪ 対応と治療について ≫

1 対応について

例えば、アルツハイマー型認知症になると、物が覚えられず、分からないことが増えたことに、不安や焦燥を感じられています。正しい判断力の低下に加え、忘れたこと自体も忘れている場合、一方的に家族から記憶にないことを捲し立てられると、「悪意を持って、無実の私のせいになっている。きっと私を嫌いなのだ。」などと、怒ったり悲しんだりされます。

記憶力は低下するものの、感情は保たれているため、不快な気持ちが継続され、それが繰り返されると、家族の顔を見ただけで身構えてしまうようになりかねません。泣き出したり、怒ったりされるようになることさえあります。

ご本人を否定せず、行動の原因を察し、また失敗しないように環境を整備して、機嫌よく自信をもって過ごされるようにサポートすることが大切です。

(例えば食事後に…)

ご飯はまだ？

お茶でも飲んで待っていてくださいね。

ポイント！

否定せずに話をそらしましょう。
血糖値が上がってくるにつれ満腹感を感じ、食事を要求したことも忘れられることが多いです。



2 治療について

認知症の早期発見・早期治療は、なぜ重要なのでしょうか。

例えば、上記で述べたようなアルツハイマー型認知症の場合、本人も不安や焦燥を抱えている症状に対して、周囲が不適切な対応をしてしまうと、周囲に対して不快感などをもたれます。そのような環境の中で生活することで、本人の不安や焦燥が、怒りや異常行動（いわゆる BPSD（認知症の行動心理症状：妄想、幻覚、徘徊、攻撃性など））を引き起こすとされています。

認知症を早期発見することで、初期から適切な対応を周囲の方がとることができます。それは、ご本人の生活上での失敗を防ぎ、笑顔で生活できる環境を整えることにつながりますので、BPSD や QOL（生活の質）の低下の予防に効果的です。

加齢により、身体機能も認知機能も低下しますので、できないことが増えることは当然です。低下した機能を理解したうえで、生活を失敗しないようサポートし、自信と笑顔に満ちた暮らしをつくるのが大切です。好きなことを見つけて出し、楽しく続けられる環境をつくっていきましょう。